

財団からのお知らせ

寄付募集・賛助会員募集ページを新設いたしました

このたび、財団への応援団としてご支援いただける賛助会員制度を整備し、当財団ホームページ内に、寄付募集および賛助会員募集ページを開設いたしました。当財団の運営は、その財源のほとんどを寄付金とうみうしくらぶの会費でまかなっておりますが、昨今の経済・金融状況からすると、現状資金だけでは長く継続していくことが難しくなりつつあります。今後も水棲の無脊椎動物研究への支援を継続して行なっていくために、改めてご支援をお願いするに至りました。ホームページからお申し込みいただけます（用紙によるお申し込みも可能です）。年間3,000円以上の寄付をいただいた方および賛助会員の方へは、「うみうし通信」を進呈させていただきます。水棲の無脊椎動物研究へのご支援をお考えの方はぜひ当財団への寄付をご検討いただけますと幸いです。詳しくはホームページをご覧ください（<https://www.rimi.or.jp/support/>）。

また、上記ページを開設するにあたり、長年ご利用いただきました「質問コーナー」を終了させていただきました。当コーナーでは、みなさまからの無脊椎動物に関するご質問にお答えしてまいりましたが、近年、インターネットの発達や図鑑ブームの力もあり、マイナーな水棲の無脊椎動物の情報も以前より得やすくなりました。みなさまの知識の向上により、より専門的な回答が必要となり、情報提供に限界を感じていたことから、このコーナーは役割を終えたと判断しました。ご利用いただいた皆様に、お礼申し上げます。



図1 ご支援のお願いページ（矢印、財団ホームページ内）

海洋生物多様性情報データベースへ情報の提供を開始しました

当財団で保管している生物情報（観察データ）について、「うみうし通信」No.101で紹介された国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の海洋生物多様性情報データベース BISMAL（ビスマル、Biological Information System for Marine Life）および OBIS（国際プロジェクト Ocean Biodiversity Information System）へ情報提供を開始しました。

当財団では、磯の生物勉強会等の観察会で、専門の先生方にご指導をいただき、生物の採集や観察を行なってきました。また、観察の際に撮影した画像記録も保管しています。これらの記録は生物の分布情報や生物多様性の基礎的なデータとして活用が可能なものもあります。そこで、まずは2017年に沖縄県本部町瀬底島の琉球大学瀬底研究施設で行った磯の生物勉強会での観察情報を、上記データベースへ提供いたしました（https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/dataset/RIMI_24th_iso-kansatsu）。

みなさんと一緒に観察した情報が、こうした外部のデータベースへ提供され、活用されます。生物多様性情報として利用するためには、正確な同定や観察場所の詳細な記録が必要で、画像や標本の保管なども重要となります。今後、この取り組みを通じて、保管されている生物情報をさまざまな形で活用していく予定です。



図2 BISMAL内のデータセットのページ

編集後記

このたび、うみうし通信へ2名から投稿をいただきました。巻頭は高校生の著者による研究の紹介です。うみうし通信では、学会などで中高生発表をした方にご執筆をお願いすることもあります。こうした若い学生さんたちに活用していただける機会となれたことを嬉しく思います。また、生物や研究の情報を提供したい、論文出版したけど、その内容を一般向けに紹介したいなどのご希望がありましたら、投稿を歓迎いたしますので、ぜひ事務局までお知らせください（編集担当で検討後、掲載の可否を決定）。

今号の表紙は、温かみのある色のイボヤギウミウシです。このウミウシはイボヤギという刺胞動物を食べて生活をしているため、イボヤギの近くで見つかるそうです。今回は少し離れた場所において、最初は気づかなかったと撮影者の今本氏からエピソードを教えてくださいました。ウミウシは食性が決まっていることが多いので、餌となる生き物の周辺を探すと見つけやすいそうです。ウミウシに食べられてしまったイボヤギは白い骨格が見えるほどになってしまうので、その近くを探すとイボヤギウミウシが見つかるかもしれません。